



ユニオンニュース・掲示回覧用

秋季連続学習会

第1回 社会保険加入要件の変更など

10月20日(木) 18:30～
連合大阪中会議室

講師:西山佳子さん(社会保険労務士)
今年10月から、短時間労働者の社保加入要件が、広くなりました。どのように変わったのか、職場にどんな影響があるのか、学習します。

第2回 労働者協同組合法(ワーカーズコーポ)

全港湾建設支部共催 **の内容について(仮)**

11月21日(月) 18:30～ WEBです。
連合大阪中会議室

講師:田中夏子さん
(長野県高齢者生活協同組合・理事長)
今年10月に新しく施行された法律。労働者自身による企業経営の可能性を学習します。

安倍の国葬強行に断固抗議!

喜んで参加する連合会長の行為は認められない。

安倍は国葬に値する!そんなバカな!

岸田首相は、安倍氏が亡くなってすぐ、「国葬」をする、と発表した。殺され方が衝撃的であったことで、冷静な判断を欠いたかもしれない。国葬に値する根拠は、結局「長く首相を務めた」というだけにすぎない。これといった具体的な功績は上げられなかったように思われる。

首相をすれば、何らかの「業績」はある。ただ、とりわけ安倍がどんな素晴らしいことをしたというのか?

安倍政権でもっとも思い出されるのは、アベノミクスという言葉。まさにこれが、私たち労働者の低賃金化の元凶だ。大資本にお金がどんどん回るように施策が打たれ、企業の内部留保は天文学的な数字になった一方で、企業が利益を上げれば、労働者にも回ると言った公約は見事に裏切られた。経済成長で言えば、民主党政権時代を下回り、賃金の相対的低下は著しくなった。

最低賃金の大幅な引き上げは民主党時代からの流れで、

決して安倍の成果ではない。

そして、モリカケ問題と言われた、忖度政治は、まじめな公務員の自死を招いた。その責任は明らかにしていない。しかし、安倍それにこびへつらう官僚の責任であることは、誰もがわかっている。桜を見る会のワンマンぶりや、他党や他人をこき下ろす事には力をいれるが、自らの責任からは一切逃げ回った元首相が「国葬」に値するなど誰が思っているのだろうか。元統一教会-勝共連合の連中くらいか。

弔意を表すことと国葬に参加することは違う!

国葬(国葬儀)は国家的イベントだ。これに参加することは安倍に勲章を与えに行くようなもの。同一労働-同一賃金といいながら、「働き方改革」の法律は抜け道満載である。労働者の代表の立場として、この安倍政権がもたらした賃金低下や忖度政治による公共投資の拡大や凶らずも射殺によって明らかになった統一教会との関係も一切許す行為につながる「国葬」には絶対参加すべきではなかった。残念でならない。

結成25周年(1998年)の式典にて



後藤力さん



岩田清治さん

お二人の結成当初の活躍は今の大阪地域合同労働組合の基礎になっています。私が労働委員会の文書を作る際、岩田さんのガリ切りされた文書を参考にして作ったことを覚えています。結成50年を迎えた今、先人方の貢献に心から感謝し、ご冥福をお祈りいたします。(木本)

当組合の初代書記長の後藤力さんが8月20日お亡くなりになりました。当組合を誕生させた立役者で、役員を離れても結成からずっと陰から応援していただきました。

当組合が初めて大阪府労働委員会から命令を受ける時になって、後藤書記長が公務員(当時西区役所職員)であることで、資格審査に問題が出ました。あわてて、当時医療分会の岩田さんに変更したことがありました。その岩田さんも昨年、亡くなられています。

